

16の提言

～これからの習熟度別少人数学習のために～

授業について

確かな学力を身に付けるために、習熟度別少人数学習を実施する際に、次のような視点で授業を組み立てることが大切です。

適切なコース選択のために…**提言1 コース選択の目安を具体的に示す**

例：学習内容の理解度、学習ペースの適性、授業への満足度などを自己評価できる振り返りシートを活用しましょう。また、コース選択に悩んでいる児童生徒にとって、有効な判断材料になるよう、それらの項目を数値化するなどして、目安を具体的に示しましょう。

提言2 コース決定の意思を書き留める場面をつくる

例：児童生徒が主体的にコース決定をしているという意識をもつことが大切です。コース決定の際に、児童生徒が納得し、学習意欲を高めるために、自分の意思を書き留める場面を設けましょう。

提言3 コース変更の機会を設ける

例：コース適性を自己判断するための試行期間を設けましょう。
：単元ごと、小単元ごと、単位時間ごとなど、コース変更の機会を工夫しましょう。

基礎コースの学習を充実するために…**提言4 問題解決の見通しがもてるように、視覚的な工夫や作業的・体験的な活動などを取り入れた教材を活用する**

例：具体物や模型を使った作業的・体験的な活動などを工夫していきましょう。(図19)
：プロジェクタや実物投影機などを利用して、視聴覚教材の活用に努めましょう。
：問題解決の糸口がつかめるように、既習事項を振り返る場面を設けましょう。

提言5 発表の機会を設け、自己肯定感と学習意欲が高まるように、雰囲気作りに努める

例：児童生徒のつぶやきやノートの走り書きなどから、小さな気付きを見逃さず、授業に取り上げ認めていきましょう。
：少人数のよさを生かし、全員が発言・発表できる機会を設けましょう。



図19(授業モデル3参照)

提言6 数学的な考え方に気付き、そのよさが味わえるように、問題解決の過程を振り返る場面を設定する

例：問題解決の過程を振り返って、「どのように考えたことがよかったのか」を児童生徒の言葉でまとめる場面を繰り返し設けましょう。

発展コースの学習を充実するために

提言7 追究意欲が高まるように、問題を工夫する

- 例：具体物や模型を提示して、身近な実生活から取り上げた問題を扱いましょう。（図20）
：生徒の思考が広がるような問題を扱いましょう。

提言8 充実感と達成感が味わえるように、問題解決の支援を工夫する

- 例：結果を予想させたり、問題解決の見通しをもたせたりしましょう。
：児童生徒の理解度に応じた学習プリントを活用しましょう。
：児童生徒が自力解決できるように、考える時間を十分に設けましょう。

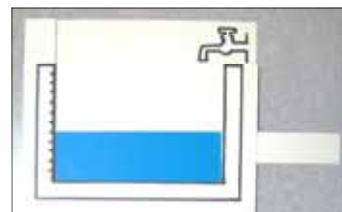


図20（授業モデル5参照）

提言9 算数・数学への関心・意欲が高まるように、発表の手だてや発展的な問題を工夫する

- 例：自分の考えを整理して発表できたり、話し合いができたりするようにしましょう。
：発展的な問題においては、児童生徒の関心や理解度を考慮して、難易度の程度に幅をもたせましょう。

学校体制について

質の高い習熟度別少人数学習の授業を可能にするには、次のような視点で学校体制を充実することが大切です。

習熟度別少人数学習を効果的に実施するために

提言10 習熟度別少人数学習が複数学年で行えるように、算数・数学担当者の時間割を工夫する

- 例：算数・数学担当者が、複数の学年の習熟度別少人数学習にかかわれるように、算数・数学の時間を異学年と重ならないような時間割を工夫しましょう。

算数の時間を学年で固定すれば、加配教員が四つの学年で指導することが可能です。

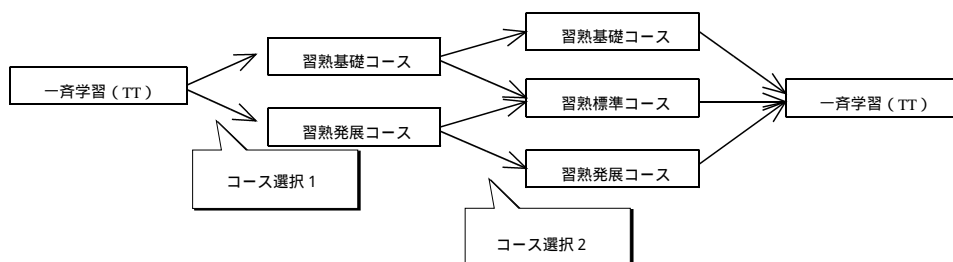
	月	火	水	木	金
1		4年	5年		
2	3年	5年	6年	6年	3年
3	4年	6年	3年	3年	4年
4	5年	3年	4年	4年	5年
5	6年			5年	6年
6					

（時間割の工夫例）

提言11 単元における学習形態を工夫する

- 例：どの単元で、また、単元内のどの場面で、習熟度別少人数学習の効果が期待できるかを吟味し、ほかの学習形態のよさも生かした年間指導計画や単元計画を、授業担当者が工夫していきましょう。

（単元内における学習形態例 授業モデル1参照）



習熟度別少人数学習における指導の充実のために...

提言12 児童生徒の実態や指導方法、評価規準などの 共通理解が深まるように工夫する

例：既存の会議を見直し、打合せが行えるように、打合せ時間を週の中に位置付けることが大切です。しかし、週の中に位置付けることが難しい場合があります。その時は、ふだんの小さな情報交換の積み重ねを大切にしましょう。

：習熟度別少人数学習を実施する前段階に、チーム・ティーチングで協力する授業を行うなどして、担当者同士が児童生徒の実態について共通理解を深め、指導方法の確認及び改善を図っていきましょう。

提言13 教材・教具をそろえ、共有できるようにする

例：コース別学習に対応するために、具体物や半具体物など、児童生徒の実態に合った教材・教具をそろえ、学校全体で共有できるようにしましょう。

提言14 掲示物の工夫や教室を仕切る など、教室環境を整える

例：児童生徒が集中できるように教室を仕切るなどして、人数に適した広さになるように工夫しましょう。

：既習事項の振り返りができるように、コースに適した掲示物を工夫しましょう。(図21)



図21 (授業モデル4参照)

習熟度別少人数学習を発展的に継続するために...

提言15 児童生徒の実態を踏まえて 単元における学習形態を修正する

例：教員間で児童生徒の実態についての情報交換に努め、その把握をもとに学習形態を吟味し、単元における学習形態を適切に修正しましょう。

提言16 習熟度別少人数学習のよさの啓発に努める

例：授業経験豊かな教員による習熟度別少人数学習の授業を、授業経験の少ない教員に公開するなどの機会を設けましょう。

：教員間で、学習形態などの工夫による授業改善や指導力向上の成果を共有しましょう。

Web検索キーワード

【習熟度別学習 確かな学力 少人数学習
意識調査 算数 数学】

< 共同研究者 >

グループリーダー	田村 充	
指導主事 (研究チーフ)	角田 忠雄	上原 広行
	田島 公基	伏見 和枝
	宮内 光一	野村 達之
	飯塚 幹雄	
長期研修員	高橋 義弘	宮澤 秀治
	磯貝 博昭	大里 忠弘
	青木 京子	